

令和元年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
女性の活躍

パワフルに男女共同参画社会を推進

○氏名又は名称 那須 真理子

○所在地 熊本県菊池郡菊陽町

○出品財 女性の活躍

○受賞理由

・地域の概要

菊陽町は熊本市の北東部に位置し、交通インフラが整備され、豊富な地下水があることから企業の参入も進み、白川中流域の豊かな水と肥沃な土壤に恵まれ、多様な農畜産物が生産されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

那須氏は、昭和49年、結婚と同時に就農。氏の住む菊陽町鉄砲小路地区は、明治時代まで士族として戸籍に載っていたという古い歴史を持つ。氏は地区に残る固定的な性別役割分担意識が地域の発展を妨げていると感じ、男女共同参画そして社会参画の取組に邁進した。58年に園芸作物から肉用牛へ転換を図り、徐々に規模拡大を図り、現在、黒毛和種と褐毛和種を合わせ約100頭規模の経営を確立した。

・受賞者の特色

(1) 褐毛和種の導入と経営発展

肉用牛経営への転換当初から、褐毛和種の生産を行い「あか牛」のブランドを守ってきた。氏は、自ら農外アルバイトで貯めた資金で子牛5頭を購入、出荷まで行い、経営の面白さに目覚めた。平成13年のBSE問題発生時には出荷困難となったが、地域の協力を得て自ら販売。21年、自宅に牛肉直売所を開設。枝肉は高い評価を受けており、高品質の肉牛生産と自給飼料率約80%で高い収益性を実現。

(2) 女性農業者のネットワーク化の推進

63年、東肥畜産農業協同組合女性部が設立され、初代会長に就任。BSE問題発生時には、会員自ら牛肉の販売店舗へ出向き安全を訴えた。この活動が認められ熊本県畜産農協6支所にそれぞれ女性部が設立された。これらを統括した「モーモーレディース連絡協議会」が17年に設立され初代会長に就任した。

また、10年、熊本県農業女性アドバイザーの地域活動組織「レインボー菊池」を立ち上げ初代会長に就任。16年には、「全国縦断畜産いきいきネットワーク」の設立に貢献し、19～21年には2代目会長を務めた。

(3) 男女共同参画の普及・推進

58年、地域内の女性で「みずき座」を結成し、自ら脚本を書き「男女共同参画」を啓発する演劇を上演した。15年、「菊陽町男女共同参画懇話会」会長に就任。

15年から12年間農業委員を務め、農業委員の意識改革、女性委員の登用拡大に尽力。23年には菊陽町初の女性農業委員会会長に就任した。27年には、菊陽町議会議員に当選し、菊陽町男女共同参画推進条例の制定に尽力した。

・普及性と今後の発展方向

氏は、生活の中で実感した女性差別や社会参画の不十分さを解消するために、地域の仲間づくり、社会への啓発活動、各種役職への就任等、幅広くかつ長期にわたり様々な活動を実践してきた。また、自らの農業経営を方向づけ肉用牛の直接販売にも取り組み、地域の肉用牛の生産振興にも尽力してきた。氏は、「これからも引き続き、性別の違いなど互いに理解し応援できる男女共同参画社会を推進していきたい」と意欲を述べている。